

2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦

AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

9月12日(土曜日) 天候：曇り／晴れ 路面：ドライ

公式予選／1' 48"919 6番手

9月13日(日曜日) 天候：曇り／晴れ 路面：ドライ

決勝／6位 (19周)

開催地：大分県・オートポリス (1周=4.674km)

入場者数：21,990人 (土・日合計)

第4戦SUGO、そして鈴鹿8耐を挟み、JSB1000クラスのシーズン後半戦スタートとなる全日本ロードレース選手権第6戦が大分県・オートポリスで開催された。今回は、開幕戦に続き、4輪のスーパーフォーミュラと併催で行われる2&4レース。天候に恵まれ、多くのレースファンがオートポリスに詰めかけた。

今回は事前テストはなく、山口は鈴鹿8耐を終えてから約一か月半ぶりにJSB1000仕様のHonda CBR1000RRに乗ることになったが、その間もトライアルやモトクロスなどでトレーニングを積んできており、走り始めもスムーズに入ることができていた。オートポリスは山口が得意としているコース。初日は、4月のデータを元に、9月のコンディションに合わせてマシンをセットアップ。1分49秒356をマークし7番手につけていた。



久しぶりにノックアウト方式で行われた公式予選。まずは全車が走行するQ1は40分間のセッション。この日からスーパーフォーミュラが走り始めており、路面への影響を見ながら決勝に向けたセットアップを行って行く。ここで山口は1分49秒357を記録し3番手でトップ10チャレンジに進出する。15分間で争われたQ2。山口は、セッション終盤にタイムアタックし1分48秒919で6番手となり、決勝はセカンドロウからスタートすることになった。

決勝日も天候に恵まれコンディションは悪くなかったが、朝のウォームアップ走行で問題が明らかになり、決勝までに、問題だった部分を交換してグリッドに並んだ。

19周で争われた決勝レース。スタートは、まずまずだったが、交換した部分のフィーリングをつかむまでペースを上げることができずポジションを下げてしまう。オープニングラップは、9番手でホームストレートに戻って来る。トップグループは数珠つなぎとなっており、山口は、その最後方につけていた。その後、感覚をつかんできた山口はペースを上げポジションを上げて行くが、序盤の遅れが響きトップ争いからは引き離されてしまう。

それでも柳川選手、浦本選手と三つ巴のバトルを展開し、その一番前でゴール。ポジションこそ6位だったが、レース中のベストタイムでは3番手を記録し、マシンの方向性が正しかったことを確認。次回、チームのホームコースである岡山国際ラウンドに向けて、いいデータを取ることができたレースとなった。



#### JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「決勝日朝のウォームアップ走行で不具合が見つかり、その部分を交換してレースに臨みました。ぶっつけ本番となってしまったため序盤はペースを上げることができずトップ争いに加われませんでした。ベストタイムはよかったので次回の岡山国際で100%力を出し切れるように事前テストから、しっかり準備していこうと思っています。今回も多くの応援ありがとうございました」

#### チーフメカニック 戸井田剛コメント

「鈴鹿8耐以来のレースで事前テストも行えませんでした。初日から良いペースで走行ができたと思います。予選も自己ベストには及びませんでしたが、安定したペースで走れていたことで良いリズムでレースを迎えることが出来ました。レースは序盤で出遅れてしまい、ペースを取り戻した時には上位と差がつき残念な結果となってしまいました。ライダーの調子は良いので次戦岡山はしっかり事前テストを行い、表彰台を狙いたいと思います。」

#### 総監督 福間 勇二コメント

「全日本ロードレース後半戦が始まりました。まずは、御協力、御協賛をいただいております皆様に心より感謝申し上げます。表彰台は逃してしまいましたが、ライダーの調子もよく次戦の岡山では良い結果が出せるようにチーム一同努力して参りますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。」

株式会社TOHO  
TOHORacing with MORIWAKI  
担当：三山